

日本科学者会議
福岡支部ニュース
No. 292
2025 年 6 月 23 日発行

●日本科学者会議事務局

〒113-0023 東京都文京区向丘 1-1-17 タカサキヤビル 5F
Tel: 03-5615-9032 Fax: 03-5844-6513

●福岡支部事務局

〒813-0021 福岡市東区みどりが丘 3-11-5
小早川義尚 気付け

<E-mail> fukuoka@jsa-fukuoka.sakura.ne.jp

<郵便振替> 福岡 01790-1-5576

<支部 HP> <http://jsa-fukuoka.sakura.ne.jp/index.html>

目次	ページ
1 日本科学者会議(JSA)福岡支部 第55回定期大会(5/11)の報告	1
2 日本科学者会議(JSA)福岡支部 公開講演会(5/11)の報告 「「反省するドイツ」から「右傾化するドイツ」へ? - AfD 台頭の歴史的位相をめぐって -」(講師: 今井宏昌氏)	5
3 「福岡 AI 問題研究会(仮称)」準備会(7/26)へのお誘い 「人工知能 AI は社会と人間に如何なる影響を及ぼすか」	6
4 日本科学者会議第56回大会(5/24, 6/8)の報告	7
5 例会等の案内 「福岡 AI 問題研究会(仮称)」準備会(7/26) 「人工知能 AI は社会と人間に如何なる影響を及ぼすか」	8

1. 日本科学者会議(JSA)福岡支部 第55回定期大会(総会)(5/11)の報告

5月11日(日)13時30分から、日本科学者会議福岡支部の第55回定期大会(総会)がオンラインで開催されました。残念ながら、オンライン出席が10名に満たない状況でありましたが、議長に出口氏を選出し、事前に会員の皆さんへメールと郵送で配布してあった文書を基に、2024年度の支部活動の報告と討議、2025年度の支部活動方針の提案と討議を行いました。

2024年度の支部活動の報告と討議は、次のような内容でした。

これまで継続的に取り組んできた核問題研究会・読書会と毎月の支部幹事会は維持されてきました。しかし、対外的な取り組みである「市民と科学者の対話」は、地球環境問題をテーマに計画されましたが、講師の体調不良によって中止せざる得なくなり1回も開催できませんで

した。「支部談話会」も第4回が話題提供を押川元重氏にお願いして「モンティ・ホール問題について」というテーマで1回開催できただけでした。北九州分会活動では、これまで対面で行われていた分科会をオンラインに変更し、これまで取り上げてきたAI問題について2回目の分科会を開催したことが報告されました。一方、全国的な活動や九州・沖縄地区での活動については、九州沖縄地区シンポジウムを佐賀支部が中心になって久しぶりに対面で開催することができ「佐賀から見える日本の平和と暮らしへの深刻な脅威を科学する」をテーマに、有明海問題、原発の生み出す核廃棄物の最終処理場の問題、佐賀空港への自衛隊によるオスプレー配備問題について佐賀の地元の市民団体との共催で有意義な報告・討議が行われたことが報告されました。また、第25回総合学術研究集会は最近の総学と同様にオンラインを中心に開催され、参加が容易なこともあって福岡支部からも数名の会員が参加されました。討議においては、全体的に会員の高齢化・現役会員の減少によって支部活動が低迷傾向になっていることは否めない状況であること、他の市民運動団体等との協同行えていないことの問題などが議論されました。

引き続き、24年度の会計報告と監査報告があり、24年度の活動報告とともに承認されました。事前配布資料には含まれていなかった、会計報告・監査報告はこのニュースに掲載しています。

次に、2025年度の支部活動方針と予算案の提案と討議が行われました。（決定された予算表は下に添付します。）現在、福岡支部で継続的に行われている、月1回の幹事会、核問題研究会、「日本の科学者」読書会は引き続き継続して行くことが確認されました。また、科学者会議の基本的な活動は研究会活動にあることに立ち返って、今年度中に新規に少なくとも1つの研究会を立ち上げることが提案されました。

引き続き、2025年度の支部幹事の選出に移り、現幹事会から次期幹事会メンバーの推薦があり、2024年度の幹事、伊佐智子、河内俊英、小早川義尚、出口博之、中野豊、西垣敏、三好永作（五十音順）の7名が選出されました。監事の候補者は推薦できず、選出された幹事会に選任が任されました。それに従って、6月2日(月)に開催された2025年度第1回の幹事会において引き続き磯田氏に依頼することを決め、その後当人の承諾を得ています。また、同幹事会において事務局の任務分担は以下のように決定されました。

事務局長：小早川、財務会計・機関誌発行・配送：中野、支部ニュース編集：西垣、
「市民と科学者の対話」担当：伊佐、「支部談話会」担当：出口、
『日本の科学者』読書会世話人：小早川が代行、
核問題研究会世話人：代行者を依頼中、新しい研究会(AI等)の設置：西垣+α

最後に、5月24日(土)と6月8日(日)に開催された日本科学者会議福岡第56回定期大会の福岡支部の代議員(1名)には、5月24日の代議員に中野氏が6月8日の代議員には出口氏が選出され、総会は終了しました。詳しくは、配布された資料をご参照下さい。

(報告者：小早川義尚)

JSA福岡支部2024年度収支決算報告書

(2024年5月1日～2025年4月25日)

	項目	予算	2025/04/25
収入	会費 一般	763,800	658,600
	院生	6,000	
	夫婦	1,800	
	購読費(読者)	14,400	
	機関誌送料	69,000	
	会費, 機関誌送料 小計	(855,000)	(658,600)
	ニュース発行補助	12,000	8,000
	雑収入(寄付, 銀行利子)		1,503
	支部活性化補助		
	前期繰越	829,299	829,299
	計	1,696,299	1,497,402
支出	会費上納 一般	562,800	549,398
	院生	4,200	
	読者	7,200	
	上納金 小計	(574,200)	(549,398)
	機関誌送料	69,000	50,880
	会費, 機関誌送料 小計	(643,200)	(600,278)
	旅費 シンポ等参加費	0	0
	支部活動旅費	0	0
	支部活動費	50,000	18,680
	班・分会・個人会員活動費 (2023年度分を含む)	20,000	46,485
	幹事会交通費	5,000	0
	事務局 人件費	120,000	120,000
	交通費	0	0
	事務用品等	20,000	8,471
	通信連絡費	10,000	9,504
	予備費	828,099	0
	計	1,696,299	803,418
繰越金			693,984

会計監査報告

会計監査は適正に行われ、何ら問題がなかったことを報告いたします。

2025年5月3日

磯田 宏

JSA福岡支部2025年度予算

	項目	予算	
収入	会費 一般	684,000	60@11,400
	院生	00	@6,000
	夫婦	00	@1,800
	講読費（読者）	7,200	1@7,200
	機関誌送料	57,000	57@1,000
	会費，機関誌送料 小計	(748,200)	
	ニュース発行補助	12,000	
	雑収入		
	前期繰越	693,984	
	計	1,454,184	
支出	上納 一般	504,000	60@8,400
	院生	00	@4,200
	読者	7,200	1@7,200
	上納金 小計	(511,200)	
	機関誌送料	57,000	
	会費，機関誌送料 小計	(568,200)	
	旅費 シンポ等参加費	0	
	支部活動旅費	0	
	支部活動費	50,000	
	班・分会・個人会員活動費	20,000	
	幹事会交通費	0	
	事務局 人件費	120,000	
	交通費	0	
	事務用品等	10,000	
	通信連絡費	10,000	
	予備費	675,984	
	計	1,454,184	

2. 日本科学者会議(JSA)福岡支部 公開講演会 (5/11) の報告

「「反省するドイツ」から「右傾化するドイツ」へ？」

ーAfD 台頭の歴史的位相をめぐってー(今井宏昌氏)

5月11日、JSA 福岡支部第55回定期大会の後に、標題の演題でドイツ現代史の流れやポスト冷戦期における右翼思想の変化を踏まえながら、AfD (Alternative für Deutschland: ドイツのための選択肢) 台頭の歴史的位相について考察するという内容での講演を九州大学人文科学研究院准教授の今井氏にして頂きました。参加者は20名足らずでしたが遠隔地の方の参加もあり、講演後の質疑応答では活発な討論が行われました。

始めに今井氏は、危惧されているドイツにおける右翼ポピュリズム、EU 懐疑派の台頭は、「右」を単なる「ネオナチ」や「人種差別主義者」だと断定してしまうと第一次世界大戦期から続くドイツ現代史の重要な文脈・側面を見落としてしまう、と前置きをされ講演を始められました。

現在のドイツにおけるナチズム(国民社会主義)という「過去の克服」は、決して簡単に成し遂げられたことでも、完了したものでもないことを具体的なドイツの近現代史における思想的・政治的対立状況をふまえて詳細に解説されました。そこでは、「戦後西ドイツは、ニュルンベルク裁判やアイヒマン裁判、アウシュヴィッツ裁判を経て、ナチ犯罪の実態解明と責任追及を進めた。68年運動やブラント首相の謝罪を経て、ナチ過去への向き合い方は変化したが、コール首相の歴史政策や歴史家論争で再び議論が沸騰した。」といった詳しい現代ドイツの思想状況・左右のせめぎ合いの戦後の歴史的経過が紹介されました。

また、ナチズムの淵源について、20世紀初頭からのドイツにおけるヴァイマル共和国期ドイツの右翼急進運動を指す「保守革命」の潮流について、詳しく紹介されました。その潮流の中心にいたアルミン・モーラーの論考を詳しく紹介されました。モーラーは「保守革命」を①民族至上派:「ゲルマン人」の生物学的優位性を重視/「ユダヤ」の排斥を訴える、②青年保守派:西欧型民主主義を否定/エリート中心の「職能身分制国家」を熱望、③国民革命派:市民的価値観を否定し、兵士の価値観を重視/ソ連への共感と接近、④同盟青年:ヴァンダーフォーゲルの伝統継受/屹立した「新しい人間」を理想化、⑤農村住民運動:農業不況による負債問題に起因する反体制的・急進的な農民運動、の5つに分類して論考していたこと、その中の青年保守派は西欧型民主主義を否定しエリート中心の「職能身分制国家」を熱望していたこと、国民革命派は市民的価値観を否定し、兵士の価値観を重視しソ連への共感と接近をしていたことが紹介されました。それは、現在の欧米の思想・政治・経済におけるいわゆるリベラルエリートによる「自由と民主主義」に基づく価値観の「支配」に対する反動としてのランプ現象・右傾化現象という視点とも通じる印象に残る指摘でした。

さらに、モーラーは戦後ドイツでその思想史家として地位を確立し、著書『ドイツにおける保守革命』がドイツ極右にとってナチズムからの脱却を図るための重要な基盤となったことが紹介されました。ドイツの極右勢力は、1968年の運動を「文化破壊」と批判しながら、一方ではその抗議スタイルを模倣して政治の周辺に広がる文化的な領域で活動する「メタ政治」を展開し、そうした運動を通じて「極右の知識人化」と「文化覇権」の獲得を目指しているとの指摘がされました。

講演内容は上記の報告では尽くせない豊富なもので、現在のドイツにおける右傾化の動向を歴史的に理解することの重要性とその難しさを感じる内容でした。

(報告者:小早川義尚)

3. 「福岡 AI 問題研究会(仮称)」準備会へのお誘い

(呼びかけ)

近年驚異的進展を見た機械学習技術を基礎に置く人工知能 AI は、いま、社会全般のデジタル化大競争における主役に君臨して、デジタル化変革を牽引している。特にこの一、二年の大規模言語モデル LLM の成功は、その汎用性とインターフェースの包容力から、人間活動のほとんどの場へ AI を適用できる可能性を一挙に開いたように見られる。現代の AI は、莫大な量の観測データから次の最適な行動を「予測」するマシンである。例えば、病状観測データから最適な医学的処置を割り出す AI、車載カメラの映像から障害物を判別する自動運転 AI、手話通訳 AI 等々、専門的技能に関しては、確かに便利な機械である。AI が、この様に人間の仕事を補完し、あるいは能力拡張の技術ならば、誰もその発展を押し止めることは出来ないであろう。

しかし、例えば、教師と生徒の授業中の振舞いを監視して数値データ化し、そこから生徒個別に最適学習計画を提供し、或いは教師の教育力を評価する AI は、教育を何処に導いて行くか。新しい機能をもつタンパク質の開発プロセスを提案できる AI は、請われれば、毒薬の製造法をも教示可能であろう。既に戦場に派遣されて人間を殺す役を引き受けている AI もある。人間の労働、熟練が生み出した大量データが AI の能力を高め、その結果、その AI という機械が人間の役割に取って代わる。人間は新しい便利な技術を手にして、自分の居場所を失うのであろうか。また AI 装着人間は、外部への能力拡張を果しながら、裸の人間としての能力を衰退させて行くのであろうか。

AI は、既に指摘されている「ブラックボックス問題」、「バイアス問題」、倫理性、またフェイク動画問題、ソーシャルメディアを通じた思考誘導・世論操作の危険性などについての議論をすり抜けて、超急速に、あらゆる産業、医療、教育、政治、軍事、更には科学、芸術などにも侵蝕の手を伸ばしている。人間活動の多くの分野がその AI 技術とどう向き合うか問われる事態になった。正に今、これら諸問題を、幅広い分野の研究者が参加して、討論しておく必要がある。

JSA 福岡支部としては、今まで北九州分会例会や支部講演会で、AI 化社会を如何に生きるかの議論を重ねてきたが、この問題の重要性を考え、先の第 55 回福岡支部定期大会における提起に基づいて、「福岡 AI 問題研究会 (仮称)」の設置を提案する。まずその準備会を下記日程で開きます。

＜「福岡 AI 問題研究会 (仮称)」準備会＞

日時：2025 年 7 月 26 日 (土) 14 時から 2 時間

形式：Microsoft Teams オンライン会議 (その他詳細は「例会等の案内」の項参照)

そこで AI 化社会の問題や課題を出し合い、研究会の持ち方、計画を話し合いたい。多くの会員方々の御参加をお待ちしています。

(研究会呼びかけ人：西垣 敏、小早川義尚、中野 豊)

4. 日本科学者会議第 56 回大会(5/24, 6/8)の報告

全国大会は 2 日間に分けて、ZOOM を用いたリモート会議の形式で行われました。福岡からは 05/24 (土) に中野, 06/08 (日) に出口が参加しました。

<05/24 (土) の報告>

- ・事前に配布された大会決議案に対して意見が出され、参加者の賛成多数で支持されました。同修正案に対する決議は 06/08 に行われます。
- ・各支部の活動紹介、会員減少、学際研究プロジェクト等が話し合われました。
- ・現在、ほとんどの会議はリモートで行われていますが、以降、時々は対面での会議を行うための旅費の支給を検討しているとのこと。
- ・「学術会議法案反対」を 06/08 に決議する予定でしたが、その前に参院を通過する可能性があるため、本日決議を行い週明けに発表することとしました。
- ・JSA 創設 60 周年記念事業 (案) について話がありました。
- ・「日本の科学者」は J-Stage で読むことができます。現在までに海外からを含めて 45 万回のダウンロードが行われています。以降、冊子体の機関誌の配布を必要としない会員数を把握するためのアンケートを実施予定です。
- ・科学者会議サイト内の会員ページに入るための ID とパスワードを記します。お知らせするのは会員のみですのでご注意ください。

ID: jsa

PW: sabatora

(第 1 日目報告者: 中野 豊)

<06/08 (日) の報告>

- ・午前 10 時から開催され、午後の大会の議長選出、選挙管理委員の交代の承認の後に、2 日目の議事日程の提案がなされて承認されました。
- ・大会議案への 1 日目に出された意見に基づき、修正案が示されました。
- ・「日本の科学者」編集員会でのハラスメント事案について第三者委員会で調査が行われていることが報告されました。今後の対応策として「人権擁護委員会」の新設に関する提案がなされました。編集員会でのハラスメント事案および「人権擁護委員会」について代議員、幹事およびハラスメント被害者から多くの意見が出され、「人権擁護委員会」をすぐに設置するのは無理があるとの指摘を受け、「人権擁護委員会準備委員会」の設置を事務局から提案することになりました。
- ・「日本の科学者」の発行回数・発行形態についての議論が行われました。幹事から今後、冊子体を減らし、オンライン化を進める提案がなされました。隔月発行案や冊子体の存続の要望、支部によっては冊子体の配布が困難であることが報告されました。オンライン化 (電子ジャーナル移行) についてのアンケートを実施することになりました。

- ・財政問題：単年度で大きな赤字を出さない財政状況にするための会費検討について総務財政部長より説明がありました。純単年度収支はここ数年に急速に悪化し、赤字額が増加し、このまま推移すると財政はあと5年程度しか持たないと報告された。第一の原因は会員数の減少であり、事務局費および機関紙費などの支出の見直しも検討しているが、来年度以降の会費の値上げを検討していただきたいという提案がありました。これについて代議員から会費値上げは会員減少を誘発するので反対という意見、あるいは値上げは仕方ないという賛成意見、値上げの前に寄付を募るなどの意見が出されました。「会費の問題」としてではなく、組織運営、財政問題、会員拡大、支部財政との関連など全体的な観点から解決する必要性が強調されました。
- ・組織活動のあり方（会員拡大に向けて対応すべきこと）についての報告がありました。全国の会員数は1977年には10,347名であったのが、1980年を境として減少続け、2024年には2,600名近くまで落ち込んでいるのが現状で、会員の退会に伴う減少を止めることが困難な状況が続いています。リタイア間近の会員の退会を防ぐこと、市民活動家を会員に迎えよう、院生会員を増やして持続可能な活動を目指す、教育者や研究者の横のつながりを維持・強化するなどの提案がなされました。東京支部などから会員拡大の取り組みについての報告がありました。
- ・大会議案の修正案の説明、事務所移転に伴う住所変更記載、研究委員会設置提案書の説明などがあり、総合討論が終了しました。その後、採決に移り、大会議案、予算案、役員選挙が行われました。提案された議案はすべて可決され、役員候補も全員選出されました。最後に新役員からの挨拶があり大会が終了しました。

大会に参加して、会員数の減少に伴う組織的、財政的、機関紙発行などの課題が山積している現状を知り、科学者会議の活動のスタイルの大胆な変更が迫られていると痛感しました。

（第2日目報告者：出口博之）

5. 例会等の案内

「福岡 AI 問題研究会（仮称）」準備会

日 時：2025 年 7 月 26 日（土）14 時から 2 時間

形 式：Microsoft Teams によるオンライン会議

（Teams へのアクセス情報は、会議開催日の約 1 週間前に、JSA 福岡支部会員
メーリングリスト登録者宛てにお知らせします。）

テーマ：人工知能 AI は社会と人間に如何なる影響を及ぼすか

内容 1：問題提起（西垣 敏）

2：問題と課題についての討論